

次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト

令和2年度予算額
(前年度予算額)

664百万円
650百万円



背景・課題

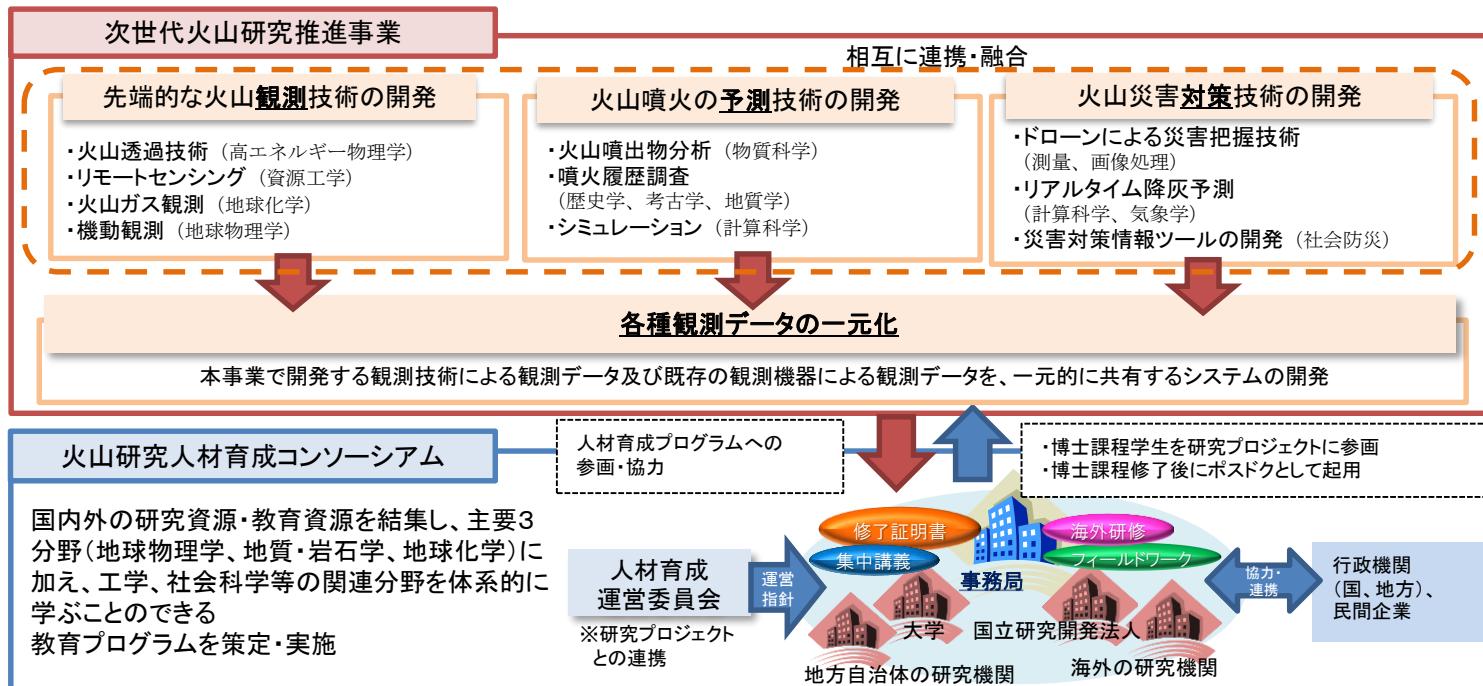
- ◆ 2014年9月の御嶽山の噴火等を踏まえ、火山研究の推進及び人材育成が求められている。一方で、既存の火山研究は「観測」研究が主流であり、防災・減災に資する「観測・予測・対策」の一体的な火山研究が不十分。
- ・プロジェクトリーダーの強力なリーダーシップの下、他分野との連携・融合を図り、「観測・予測・対策」の一体的な研究を推進。
・「火山研究人材育成コンソーシアム」を構築し、大学間連携を強化するとともに、最先端の火山研究と連携させた体系的な教育プログラムを提供。

事業概要

【事業の目的・目標】

- ✓ 「観測・予測・対策」の一体的な火山研究の推進
 - ・直面する火山災害への対応（災害状況をリアルタイムで把握し、活動の推移予測を提示）
 - ・火山噴火の発生確率を提示
- ✓ 理学にとどまらず工学・社会科学等の広範な知識と高度な技能を有する火山研究者の育成

【事業概要・イメージ】



【事業スキーム】

- ✓ 委託先機関：大学、国立研究開発法人等
- ✓ 事業期間：2016年度～2025年度



【これまでの成果】

- 火山研究人材育成コンソーシアム
- ✓ 参画機関（2019年3月時点）
 - 代表機関：東北大
 - 参加機関：北大、山形大、東工大、東大、名大、京大、神戸大、九大、鹿児島大
 - 協力機関：防災科研、産総研、国土地理院、気象庁、信州大、秋田大、広島大、茨城大、首都大学東京、早大
 - 協力団体：7道県、日本火山学会、イタリア大学間火山学コンソーシアム、日本災害情報学会

✓ 火山研究者育成プログラム受講生

- ・2016～2019年度、84名の受講生（主に修士課程の学生）を受け入れ
- ・2018年度までの修了者数：基礎コース55名、応用コース26名
- ・2018年度、主に博士課程の学生を対象とした発展コースを新設